

1 私の「津軽」俳句日記

作者：青森市在住 60 代男性会社員

作品の概要	<p>今年 7 月 12 日から 8 月 23 日までの 5 回の日曜日、太宰ゆかりの地を日帰りで訪ね、太宰の足跡を偲びながら、その地の情景等を詠んだ俳句一首で締め括る 5 日間の日記スタイルの作品。</p> <p>7 月 12 日：金木（斜陽館、芦野公園） 7 月 19 日：蟹田（観瀾山） 7 月 26 日：今別、三厩（本覚寺、義経寺、龍飛岬観光案内所） 8 月 9 日：深浦、鱒ヶ沢（ふかうら文学館、町歩き） 8 月 23 日：小泊（小説「津軽」の像記念館）</p> <p>作者は、高校生のとき太宰作品に出逢い、生誕 100 年を機に約 50 年ぶりに読み返した。読後、「やすらぎ」のようなものを感じ、太宰が「愛」を追及した『津軽』執筆の旅をしたのに対し、「やすらぎ探し」の旅を思い立つ。</p> <p>県内在住者ならではのゆったりした日程で各地を巡り、太宰の心情を理解し、当時の情景を想像しながら、『津軽』の旅のクライマックス「たけとの再会」の地で、作者は「やすらぎ」に浸りながら旅を終える。</p>
選考理由	<p>「やすらぎ探しの旅」が、『津軽』という作品に対する感想と俳句の融合により、うまくまとめられている。</p> <p>『津軽』の読みが深い。</p> <p>「やすらぎ」を中心においた 5 日間の旅は、読み手にも「やすらぎ」をプレゼントするようだ。</p> <p>素直な表現がよい。</p> <p>『津軽』の魅力と現在のその地の様子が、佳句とともに伝わってくる。</p>